

5:12 安息日を守って、これを聖なる日とせよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。

5:13 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならぬ。

5:14 しかし七日目は、あなたの神、主の安息日である。あなたはどんな仕事もしてはならない。・・あなたも、あなたの息子、娘も、あなたの男奴隷や女奴隷も、あなたの牛、ろばも、あなたのどんな家畜も、またあなたの町囲みのうちにいる在留異国人も。・・そうすれば、あなたの男奴隷も、女奴隷も、あなたと同じように休むことができる。

5:15 あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、主が力強い御手と伸べられた腕とをもって、あなたをそこから連れ出されたことを覚えていなければならぬ。それゆえ、あなたの神、主は、安息日を守るよう、あなたに命じられたのである。

5:16 あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が命じられたとおりに。それは、あなたの年齢が長くなるため、また、あなたの神、主が与えようとしておられる地で、しあわせになるためである。

5:17 殺してはならない。

5:18 姦淫してはならない。

5:19 盗んではならない。

5:20 あなたの隣人に対し、偽証してはならない。

5:21 あなたの隣人の妻を欲しがってはならない。あなたの隣人の家、畑、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

新しい地で祝福を受けるために必要なのが、安息日を守ることです。神に造られた人間は、神を何よりも第一にしなくてはなりません。それは毎日のはずですが、主はせめてこの日だけは神を第一として、神にのみ従って過ごささいと命じられます。

またそれは心の安息であり、社会全体の安息でもありました。それによって、その人が神を本当に信じているかどうか分かります。ですからそこに祝福があるのです。

それは現代も同じです。日曜に仕事を休めない場合や、社会的な緊急事態もあるかもしれませんが、その場合はインターネットやスマホなどで工夫して、主を第一とさせていただきましょう。

次に親を敬えということです。親との関係が健全であれば人間関係も健全になりやすいですし、生きづらさから開放されます。それは”幸せ”の重要な要素でしょう。敬えない事情がある人は主に回復を願いましょう。

殺し、姦淫、盗みなどは稀なケースかもしれませんが、イエス様は”心の中の殺し、姦淫、盗み”を問題にされます。私たちは心も行動も、神の民としてふさわしい日常を送りましょう。

偽証は犯罪の温床です。隣人に対してというように個人的な範囲であっても気をつけましょう。貪欲は罪の温床です。自分のもので満足することが、幸いな人生です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

